

HP: <http://rakuno.org/>

風声雪語 — 野幌だより —

酪農学園同窓会ニュースレター



高校・短大・大学 同窓生関連の最近の話題

九州地区大分県支部設立総会報告

トピック
HPの更新状況から
○高等学校関連

○短期大学関連

○大学関連

○地区支部同窓会関連

- 2016年(案内)
- ・十勝支部総会
 - ・沖縄支部総会
 - ・鹿児島支部総会
 - ・茨城県支部総会
 - ・北海道北空知支部総会
 - ・酪小獣大阪会総会
 - ・長野支部総会

12月13日午後5時から大分市内のアリソンホテル大分を会場に、九州地区で8番目(最後)の大分県支部が設立され、同窓生24名が出席した。学園からは福山二仁常務理事、谷山弘行教授(講師)。同窓会から堀内信良副会長、古賀友英九州地区会長、浦川が出席した。

設立総会は植木佳孝氏の司会で進行的。最初に北村裕和支部長(候補者)から歓迎のご挨拶が行われた。来賓祝辞では堀内同窓会副会長が酪農学園同窓会の現況を報告し、全員に配布された学園長の編著「健土と健民に虹をかけた農思想」を紹介した。福山常務は北海道で開催された全共での出品牛の快挙や学長の解任問題、入試動向等の学園現況を紹介した。

議事では1)次第により支部会則案が審議され、一部修正を加えて拍手で承認された。2)支部役員案については口頭説明ののち協議の結果、次の方々が役員に選出された。支部長に北村裕和氏、副会長に東光昭氏、橋本忠典氏、植木佳孝氏、事務局長に植木佳孝氏(兼任)。



設立総会終了後、同会場において6時から記念講演が行われた。「酪農学園の近況と大学の教育」と題して谷山弘行教授が約40分、スライドにより大学の施設や教育内容を紹介し、今後の展望も含めながら講演した。

記念撮影ののち、改めて北村支部長からご挨拶があり、同窓生の人的ネットワーク形成の重要性を述べた。来賓祝辞では九州地区会長の古賀友英氏から大分支部設立のお祝いと来年の宮崎での九州地区総会の紹介が行われ、兼ねて乾杯の発声が行われ、懇親会となった。

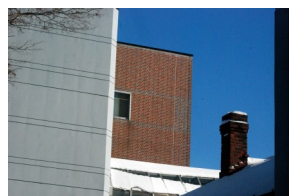
同窓会の現況 (卒業生数)

2014年度 累計卒業生数

目次:

- 最近の話題 1
- 同窓会現況 1
- 黒瀬先生誕生記念 2
- ふみあと紹介等 3
- 同窓会報告 4
- 編集後記 4

大学院 計	1,528名
大学 計	27,925名
短大 計	9,487名
高校 計	19,246名
合計 計	58,186名
酪農義塾 計	303名
酪農学校 計	
	92,000名
総合計	
	150,489名



地区支部の設置状況 () は未設置

北海道1区: 3支部(1)(江別)
北海道2区: 6支部(3)(空知1)(胆振2)(日高2)
北海道3区: 5支部(2)(後志1)(後志2)
北海道4区: 6支部(1)(留萌1)
北海道5区: 6支部(0) 26支部(7)
東北地区: 6支部(0)
関東甲信越地区: 10支部(0)
中部地区: 7支部(0)
近畿地区: 6支部(0)
中国地区: 5支部(1)(島根)
四国地区: 4支部(0)
九州地区: 8支部(0) 46支部(1)

黒澤酉蔵翁生誕130年記念出版物の紹介コーナー

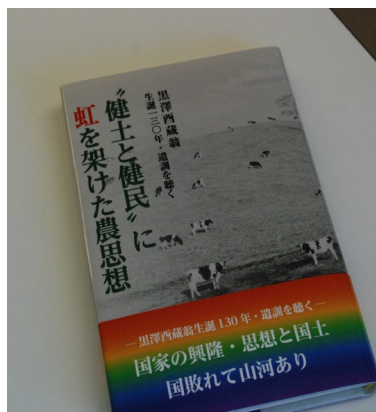
健土と健民に虹をかけた農思想

昨年、酪農学園の創立者黒澤酉蔵翁の生誕130年という節目の年を記念して2冊の本が出版された。

1冊は「黒澤酉蔵翁生誕130年・遺訓を聴く―「健土と健民」に虹をかけた農思想」。

仙北富志和学園長の編著により2015年1月に発行された。

259p 20cm ハードカバー製 北海道リハビリ発行



目次：1章 国家の興隆～健土國策と有畜機械農業～
2章 日本農業はどうあるべきか～農業國デンマーク～
3章 国敗れて山河あり～黒澤・佐藤・瀬尾先生講演集～
4章 北海道を乳と蜜の流るる里に(1)～寒地農業の確立へ～
5章 北海道を乳と蜜の流るる里に(2)～寒地農業の確立へ～
6章 回想の断章(1)～北海道開発回顧録～



7章 回想の断章(2)～北海道開発回顧録～
8章 刊行に込めた想い～田中正造全集～
9章 三健論と「健土健民」～健やかなる土～
10章 黒澤酉蔵翁の「信念と行動」・・・点描
11章 健土から健民を～反芻自戒～
補章 スクラム体制で地域農政に「活力」を

この図書については数ある遺訓の中から仙北学園長が厳選したものを紹介している。黒澤翁の遺訓の中でも健土思想は、原発事故での放射能汚染(国土汚染)に警鐘を鳴らす意味でも非常に説得力があり、普遍的な哲学と考える。

混沌とした時代があって、我々に歩むべき道標を先見性をもって示している翁の遺訓は是非ご一読いただきたい。

「大地は生命力を持っている。万物の母体である。国土の健康を維持し増進することは、人類の当然の使命である」鉱毒事件の甚大な被害を見た黒澤の決意だ。その言葉は3.11を体験した私たちに問いかけている。大地を汚すな。「国土の尊厳」こそ、正造と黒澤の思想から汲み取るべき教訓である。福島原発の事故は、大地と水を汚染した。黒澤のいう「万物の母体」は傷ついた。

北海道新聞 コラム「異聞風聞」(2014年4月27日)の転載

著書の中から

「希望も理想もない人生ほどつまらないものはないよ！君たち」と語る翁の言葉が重たい。

特別講演会 講演集

今年は、黒澤酉蔵の生誕130周年に当たることから、それを記念して、本学園と(一社)北海道地域農業研究所が共催で、5月28日に仙北富志和学園長による特別講演会が開催された。

仙北学園長は、著書「黒澤酉蔵翁 生誕130年・遺訓を聴く～「健土と健民」に虹をかけた農思想～」をベースに、黒澤酉蔵の足跡と農思想について講演した。

その講演内容と補足原稿をまとめた小冊子(48ページ) 48ページ 19cm ソフトカバー製 北海道リハビリ発行



【主な内容】

■講演録

- ・はじめに
- ・黒澤酉蔵翁の主な足跡
- ・渡道から酪農入門／教育活動／産業活動／政治活動
- ・国家の興隆
- ・日本の農業はどうあるべきか
- ・国敗れて山河あり
- ・寒地農業の確立
- ・農業の根本を知れ
- ・国土の尊厳と一律行政
- ・三健論「健土・健民・健産」

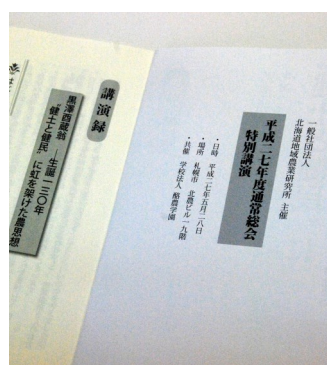
■追記(一)

- ・今こそ生きる「健土健民」の農思想

民族の興隆と「事」の本質／教育モデルと感化力

■追記(二)

- ・国土の汚染／心身の汚染／満足と希望／一つになる代価



短大Ⅱコース20年の軌跡紹介コーナー

「酪翁自伝」

2冊目は12月に酪農学園から『酪翁自伝』。

本書は『酪農ジャーナル』の前身である月刊専門誌『近代酪農』（酪農学園短期大学酪農学校）の1974年8月号から1976年12月号まで連載された浅田英祺氏による西蔵翁口述を仙北富志和学園長が再編集したものである。

290ページ 22cm ハードカバー製 北海道リハビリ発行



- 目次
- 1 話 生い立ちの記
 - 2 話 旅立ちの記、
 - 3 話 田中正造との出会い
 - 4 話 足尾銅山鉅毒事件
 - 5 話 心機一転、北海道
 - 6 話 天下の牛飼ひ百姓
 - 7 話 月寒連隊の模範兵
 - 8 話 刻苦精励・酪農自立
 - 9 話 デンマークに学ぶ
 - 10 話 牛馬百万頭計画
 - 11 話 酪連始動
 - 12 話 なせば成る

- 13 話 北海道の開発
 - 14 話 連続冷害のころ
 - 15 話 酪農義塾の設立
 - 16 話 北海道興農公社の設立、
 - 17 話 水田救済・借金棒引、
 - 18 話 協同党の結成と理想
 - 19 話 強権分割と激闘
 - 20 話 真実一路・酪農育英
 - 21 話 デンマーク視察
 - 22 話 北海道知事選に立つ
 - 23 話 冷害恒久対策
 - 24 話 冷害根絶・黒澤構想
 - 25 話 酪農学園の拡充
 - 26 話 根釧原野の開発
 - 27 話 草地開発と種苗
 - 最終話 寒地農業開発法の建議
- 編集を終えて：貴重な北海道農政史

希 望

希望は生命である。希望にかがやく国家、青年をみるとその張り切った姿、疲れを知らぬ精進ぶりには神神しささえかんずるのである。希望のない人生は生けるしかばねであって、あわれなる存在である。

希望は清く高く地に付いたものでなければならぬ。世界、国家の希望は愛と義による平和、協同、友愛の福祉社会建設であり、青少年のそれは知徳、天分を磨き、社会の良器となり、人生の幸福を享受することではあるまいか。

ふみあとー酪農学園短期大学Ⅱコース20年の軌跡

本書は短期大学Ⅱコースとして1964年に設置され、1985年に閉校した3年制短期大学の20年の軌跡をまとめたものである。197ページ 31cm ハードカバー製 デーリィマン社

目次

- 第1編
- 第1章～教育展開の軌跡～
- 第2章 Ⅱコースの教育を振り返る
- 第3章 Ⅱコースの記憶
- 第4章 授業科目・担当教員・学費内訳

絵 写真に見るⅡコース20年の軌跡



第2編

- 第1章 農に携わり、Ⅱコースに学んだ日々
(1期から20期までのOB記述)
- 第2章 もうひとつの学び舎、寮生活の日々
- 第3章 卒業生座談会
- 第4章 活躍するⅡコース卒業生
- 第5章 資料 の構成となっています。



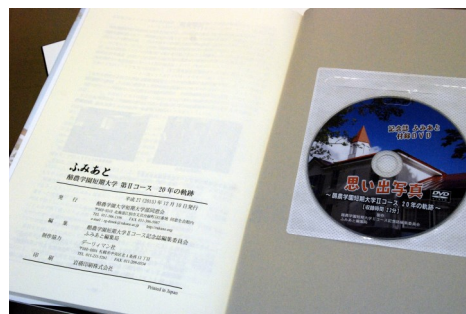
特に50ページにおよぶ紙面を割いて掲載されている各期の卒業生からのメッセージには20年のおよぶ当時の思い出話が満載されています。全Ⅱコース卒業生に配布された「ふみあと」は正にⅡコースの踏みあとを辿ったものと言えるでしょう。

炭谷編集局長は編集後記の中で、「以前に感じていた二部の少し言い出しづらいイメージが払拭され、このような素晴らしい教育現場に身を置いていたことを誇らしく思え、酪農学園短大Ⅱコース卒業と堂々と言えるような気がしている。

この記念誌がⅡコース同窓生の新たな出会いの場となり、更なる結びつきのきっかけとなることを願います。」と結んでいる。

なお、ニュースレターをご覧いただいた同窓生には、前述の2冊「健土と健民に虹をかけた農思想」「酪翁自伝」と合わせて、この「ふみあと」も含めて残部が多少同窓会にあります。

ご希望の方は、個々にゆうメール代切手（350円）を添えてお申込いただければお送りいたします。



〒069-8501

北海道江別市文京台緑町582

酪農学園同窓会

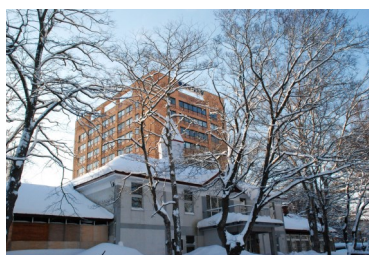
電話 011(386)1196

FAX 011(386)5987

Email: rg-dosok@rakuno.ac.jp.



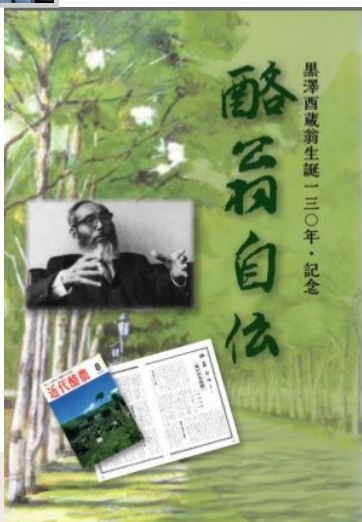
同窓会は卒業生を応援します



図書進呈のお知らせ

酪農学園では仙北富志和学園長編集により黒澤西蔵翁生誕130年を記念し「近代酪農」に掲載された『酪翁自伝』という書籍を12月1日に発行しました。

創立者の自伝が浅田英祺氏によりまとめられています。希望者は350円分の切手（郵送費実費分）でお送りします。上記同窓会事務局までお申込み下さい。（A5版 287頁）



黒澤西蔵翁生誕一三〇年・記念



緑風会総会・教育懇談会開催報告

穏やかな新年を迎え、例年になく降雪量の少ない1月7日の午後6時半から札幌駅近くのセンチュリーロイヤルホテルに会場にして、節目となる第10回目の緑風会総会・新春懇談会が開催された。会場には麻田信二理事長、竹花一成学長はじめ11名の学園関係者を含む68名の同窓生教員やOB等が出席した。

畠山佳幸副会長の司会で進行し、主催者を代表して西田丈夫会長から開会のご挨拶を頂戴した。西田会長は10年経過した緑風会の現況、教員採用試験状況、教員育成の重要性等を述べた。

総会議長は西田会長が担当した。議事について2015年度の1. 役員支部長、連絡員報告、2. 事業報告が岡田正裕事務局長から、3. 会計報告が事務局玉利和弘氏から行われた。また吉野光監査から監査報告が述べられた。2016年度の4. 役員案、5. 事業計画案、6. 予算案が審議され、拍手で承認された。次年度の中央研修会は8月6日（土）、総会・懇談会は2017年1月11日（水）となり、会場も札幌第一ホテルに変更された。その他では河野雅晴近畿地区緑風会会長が会員63名を擁する近畿地区7月3日総会開催等を紹介した。

続いて新春懇談会が二木浩志副会長の司会進行で行われ、学園を代表して麻田理事長が祝辞を述べた。入試状況や黒澤翁生誕130年記念の「酪翁自伝」、IIコース記念誌「ふみあと」の図書を紹介し、全共での酪農学園からの出品物の快挙等を含めて学園現況を紹介した。次に竹花新学長は、学長就任の抱負と学生募集での協力をお願いした。続いて大学教職センター長に就任した榎元淳一教授から5名の教員採用の報告等が紹介された。ー以下省略ー

あ と が き

昨年末は黒澤翁生誕130年に係る出版や短大IIコース記念誌の配布等のお手伝いで多少忙しい年の暮れであった。

正月明けからは例年になく穏やかな日が続き、積雪量も少ない状態のまま、まもなく大寒を迎えようとしている。センター試験も終了し、入試部では学力入学試験を迎えようとしている。

申年では、悪いことは「見ざる、言わざる、聴かざる」という日光東照宮の彫り物のような姿勢も大事だが、良いことは「よく見てちゃんと話して、よく聴く」姿勢も大切と思う。

同窓会も組織、財政面が少しずつ整備されつつあるが、まだまだ基盤が脆弱です。一層のご協力をお願い申し上げます。

2016年が始まり、3月には北海道新幹線も函館まで開通します。今年がどんな年になるか黒澤翁の遺訓の内容ではありませんが「希望」をもって何事も前向きにとらえていきたいものです。

年頭にあたり、同窓生の皆様にとっても、本年が明るく輝きに満ちた一年となりますようお祈り申し上げます。

今後の主なスケジュール

2016年

1月

23日（土）北海道第5地区十勝支部総会

30日（土）九州地区沖縄県支部総会

31日（日）九州地区鹿児島県支部総会

2月

04日（木）大学第一期学力入学試験（獣医学類）

05日（金）大学第一期学力入学試験（他学群）

07日（日）関東甲信越地区茨城県支部総会（つくば）

21日（日）北空知支部総会

28日（日）酪小獣大阪会総会・学術講習会

3月

05日（土）大学第二期学力入学試験

06日（日）酪小獣中国設立総会

12日（土）関東甲信越地区長野県支部総会

18日（金）大学学位記授与式